

# ヒロシマ ユネスコ

## 原爆ドーム ユネスコ世界遺産 登録記念号

特集／原爆ドーム、日中交流  
国際交流サロン70回

### 原爆ドーム

## 世界遺産に登録

昨年（一九九六年）十二月、メキシコのメリダで開催されたユネスコの世界遺産委員会において、原爆ドームは、厳島神社とともに世界遺産に登録されることが決定いたしました。原爆ドームの世界遺産化への取り組みは、一九九二年に、広島市議会が世界遺産化の意見書を採択したことからは始まりますが、一九九三年に広島ユネスコ協会も参画して発足した「原爆ドームの世界遺産化をすすめる会」（すすめる会）が、全国的な規模で展開した世界遺産化を求める国会請願のための署名運動も、その実現の大きな力となりました。

されたユネスコサロンにおいて、初代「すすめる会」会長古田隆規先生の講演「原爆ドーム世界遺産登録の意味」の抄録をご紹介します。

### 登録の意味

すすめる会初代代表  
古田隆規



私は、広島生まれの広島育ちだが、昭和二十年四月、竹屋国民学校五年のとき戸河内に疎開、昭和二十年八月六日原爆が投下された。母、姉、妹が被爆、兄が、入市被爆、父は韓国出征中だった。母は原爆が原因で昭和四十四年に死亡した。親戚は全滅、親族は十二名亡くなっている。

そのようなことから、原爆の悲惨さ、核廃絶についてはずっと

と思いつづけていたが、被爆者が差別されていたこと、そして、私が独身でいたこと、原水禁運動が政治的色彩が濃かったことなどから、平和運動には関心は有りながらも無意識のうちに、関与することはなかった。

しかし、弁護士会会長になって、核廃絶が、一国一民族だけのものではなく、人類が共通に持つべき課題であること、それは、普遍的価値をもつものという考えが強くなり、ドームの世界遺産化が核兵器の悲惨さ、核兵器の悲惨さを世界にアピールし、核兵器廃絶の象徴として訴えることになるということから、弁護士会に回り、私もこの運動に参画したのである。

この運動には十四団体が参加したが、こんなに早く決着がつくとは思ってもいなかった。自分としてもライフワークになるのでは、とも思っていたが、三、四カ月で一六五万の署名となった。広島市も市議会もびっくりしたのではないかと思う。

さて、それ以前に、市議会、県議会、その他市町村議会では、世界遺産化の意見書を採択、平岡市長は外務大臣、文化庁長官に要望書を持って上京、要望した。われわれは署名を持って土井衆議院議長に請願した。その

足で文化庁記念物課長に会ったが、文化庁は、世界遺産化の前提は、国内において文化財として保護されていなければならぬ、ドームはその前提を欠いている、欠いている以上は推薦する手ではないとして拒否したのである。それでは、登録する価値はあるのかと質問すると、明確な答えは返ってこなかった。厳島神社はすでに国宝として整っているので推薦しやすい。文化財は、せいぜい明治中期まで、それより新しいものは指定していない、とはねつけたのである。それと、もう一点は、条約にいう記念工作物に入らぬいと言っていた。いかにも保守的だなと思った次第である。そういう中で、広島市でも、市の文化財に指定されていないので、まずいのではないかと思っただけである。

この請願は、平成六年一月参議院本会議で採択された。当時の羽田首相も閣僚懇談会で検討を指示し、六月には衆議院本会議で請願が採択され、署名運動は成功したのである。このように、紆余曲折を経たのち、文化庁も国内での登録への体制を整え、ユネスコの世界遺産委員会へ推薦し、今回登録されたものである。

ただし、アメリカは戦争関連施設は相応しくないと主張したし、中国はアジアへの配慮もすべきであると登録に消極的であった。自分としては、平和運動を高揚させるには、アメリカのパールハーバーもそうだが、負の遺産を活用すべきだと思っているので、米・中の考えは間違っていると思っ

ている。先般、国際司法裁判所は、WTOの提訴に対して「核兵器の使用は一般的には違法、ただ自国の防衛のために使用することに対しては立ち入った意見は差し控える」との勧告的意見を出した。「一般的には……」は評価できるが、日本から出ている判事が却下意見であったことは残念であった。核兵器を使用したときは人類は滅亡するとの危機性の認識が欠けているのではないか。

今後どうすればよいか。今、核兵器は、世界に4万発とも5万発ともいわれる。疑惑国もある。ロシアの核管理の杜撰さ、頭脳流出もある。原子力発電の問題もある。核をめぐる様々な問題があるなかで、核を使用する現実の担い手は権力者である。従って、市民は、核の恐怖、残虐性、永続性などをネットワークをつくって訴える以外に核廃絶の手だてはないのではないか。あとは、権力者がそれを踏まえて、核不拡散、核実験停止をし、削減の条約を結び、核の国際管理を実現しなければならぬ。これは、本当に悲観的だが、それをやらざるをえない。

20世紀に人類が犯した最大の犯罪は、アウシュビッツ、原子力開発とその使用だと思う。地球は既に危機に瀕している。我々大人が21世紀に地球を残すために、人類の英知と努力によって、核廃絶のために永続的に運動を続ける必要がある。そういう意味で、人類最初の原子爆弾使用の惨禍を後世に伝え、さらには核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える証として、日本の歴史上のみならず、世界の歴史上においても普遍的価値を有する遺跡として、ドームをユネスコ世界遺産として登録したことは大きな意味をもつものと思っ

# ドーム、その轍

副会長 深崎敏之

かつて、評論家草柳大蔵氏が、来広中広島市の代表的と思われる青年に「広島市のアイデンティティは何ですか」と尋ねたことがあった。答えは「ヒロシマカーブ、安芸門徒と原爆ドームでしょう」ということであった。「ヒロシマカーブと安芸門徒はどうでしょうか。ほかに、考えようはないのでしょうか」と草柳氏は不満そうであった。広島アイデンティティについて考えることの難しさを感じた。

建設の道を歩みはじめ。一八九四(明治27年)年6月には山陽鉄道が広島まで開通し、県全体に大きな影響をあたえる。特に交通取り引きは盛んになる。また第五師団の成立、呉鎮守府の発足が、広島を富国強兵への国策を強く進める結果ともなつたと考えられる。一方、広島は伝統産業も生産方法の移植と物産の輸入などによって、徐々に変化し、広島は物品の集散地の機能を必要とするようになった。一九〇一(明治34)年には

物が公開されている。その後一九〇九(明治42)年、大手町一丁目以前より機能的な広島商品陳列所が勧商場の中に設けられ、広島の商品が陳列され、即売を始めている。一九〇〇年代になると広島市は宇品築港、公共水道敷設、山陽鉄道が開設されたことなどで、人口流入は烈しくなり、市場経済は活発になり、県、市共にその推進の対策として、より機能的な商品陳列館建設に取り組まねばならなくなつた。市会は一九〇五(明治38)年、市物産陳列所設立の建議書を出している。県会も一九〇三(明治36)年と一九〇八(明治41)年に陳列館設置は文

明美業の大急要素との意見書が提出され、一九一〇(明治43)年11月、第16代宗像政知事は県会の要望をとりいれ、物産陳列館建設費11万4百円を予算案として議会に上程した。ところが郡部出身議員が「急を要する程のものではない」と烈しく反対したため、知事は郡部には種牡牛馬を二頭ずつ配分するということで、県会を通過させたのである。広島市会は一九〇九(明治42)年10月、広島県の物産陳列館建設の計画を知り、市費による建設計画を断念し、宗像知事へ物産陳列館早期建設の

広島も明治を迎え、近代国家

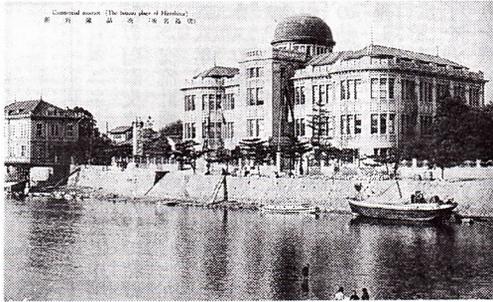
## 【大正生まれ】

1879(明治12)年 広島市播磨屋町(現在の本通り)に勧商場(物品の集散場)を開設。  
 1884(同27)年6月 山陽鉄道が広島まで開通。  
 1896(同29)年 広島市長に伴資健氏就任。  
 1905(同38)年 広島市議会で市物産陳列所建設を図る建議出る。  
 1907(同40)年1月 広島県知事に宗像政氏就任。11月/県議会、物産陳列館設置を議決。  
 1913(大正2)年7月 広島市は県物産陳列館敷地として元安川川岸約千坪を整地、県に寄付。設計者ヤン・レルツ氏来広。  
 1914(同3)年1月 広島県物産陳列館建設工事起工。  
 1915(同4)年4月 同館竣工。8月/同館事業開始。初代館長吉田寿信氏。  
 1916(同5)年5月 第1回広島県美術展開催

**年表**

**原爆ドーム**

意見書を提出している。一九一〇（明治43）年8月には、建設する際は、広島市内へとの意見書を市会で可決し、県と市で負担金、土地の問題と討議するようになった。その結果敷地は広島市元安川河畔、猿楽町の一角9百74坪9合を広島市から広島県へ寄附となる。宗像知事は5年3月の任期を終え、一九二二（明治45）年3月に第17代中村純九郎理事の登場となる。中村知事は日本初のオリソニック金メダリスト織田幹雄氏の岳父である。一年6月の在任で宗像知事の意志を継ぎ、陳列館建設費に19万円の予算を追加通過させている。



〈物産陳列所〉「広島名所」ハガキより

一九一三（大正2）年2月、知事は第18代寺田祐之氏が宮城県知事より着任した。彼は宮城県知事時代、松島パークホテルの設計をヤン・レツル氏に依頼した経験から広島陳列館の設計を東京銀座京橋に設計事務所を開いていたヤン・レツル氏に依頼している。当時レツル氏は水を背景にした建築物にユニークな美しい設計をするということ

で知られていた。レツル氏が設計の図面と仕様の一式を終えたのは一九一三（大正2）年10月4日である。設計料は4、575円であった。当時広島市の土地は坪当たり24銭から4円で、石工の日当は90銭から1円10銭、新橋―広島間の汽車の運賃は三等で5円17銭、二等7円75銭、一等13円33銭で、広島市の人口は13万であった。陳列館の起工は一九一四（大正3）年1月5日竣工で、レツル氏33歳から35歳の作品で、広島県物産陳列館とよばれたのである。事業開始は一九一五（大正4）年8月15日で、一九二二（大正10）年1月1日、広島県立商品陳列所と改称され、一九三三（昭和8）年11月1日、広島県産業奨励館と改称され、一九四五（昭和20）年8月6日、この建物の

ほぼ上空580メートルのところ、原子爆弾が爆発する。

【募金・工事】

このドームは人々から原爆ドームと呼ばれるようになり、一九五三（昭和28）年11月14日には広島県より広島市に譲与され、人類共通の平和のシンボルとして保存することになった。そこで第一回目の保存募金運動が一九六六（昭和41）年11月1日に始まり、6、619万7、816円の浄財が寄せられて、一九六七（昭和42）年8月5日、保存工事が完了した。その後20年して、損傷の著しい箇所を補修、鋼材塗装のぬりかえ等のため第二回の保存募金運動が一九八九（平成元）年5月1日に始まった。今回も国内外の人々からの浄財が寄せられ、一九九〇（平成2）年3月1日第二回原爆ドーム保存工事は終了した。

原爆ドーム北西に日本の童話・童謡を新しい芸術的領域にまでたかめた鈴木三重吉胸像と文学碑がある。三重吉29回忌、一九六四（昭和39）年6月27日に「鈴木三重吉赤い鳥の会」によって建てられたのである。製作者は円錐勝三氏である。三重

吉は一八八二（明治15）年9月29日、ドームと同じ町である広島市猿楽町83の1（現在の紙屋町2丁目）で生まれている。小学校はドームの西、川をへだてた所にある本川小学校で、幼少の頃ドームの辺りで遊んでいたことは「瀬戸内海の浪の音」の中に書いている。こういった縁で、ここに建てられたものと思われる。

【共有・共鳴・共感】

一九六七（昭和42）年、英語青年5月号に、かつて駐仏大使であった古垣鉄郎氏が「広島原爆ドーム」と題しての随想がある。特に印象に残った箇所を引用させて頂く。

「オリソニックは優勝することが目的ではなく、これに参加することが理想であるように、ドーム保存の募金運動もまた、所要の金額を集めることが目的ではなくて、真の目標はこれを世界中の人類の共有とし、共鳴し、共感する所まで高揚することにあると信ずるのである。従って、これは広島や日本だけの問題ではなく、世界各国民衆の精神運動とすべきものと私は考えるのである」

- 1921（大正10）年1月／広島県物産陳列館を広島県立商品陳列所と改称
- 1933（昭和8）年11月／広島県立商品陳列所を広島県産業奨励館と改称
- 1944（同19）年3月／広島県産業奨励館の業務廃止。建物を中央官庁の出先、統制組合の事務所として使用。
- 1945（同20）年8月／原子爆弾投下により大破全焼。
- 1953（同28）年11月／広島県、原爆ドームを広島市に譲与。
- 1966（同41）年7月／広島市議会、原爆ドーム保存を決議。11月／第1回原爆ドーム保存募金運動開始。
- 1967（同42）年8月／第1回原爆ドーム保存工事を完了。
- 1989（平成元）年5月／第2回原爆ドーム保存募金運動開始。
- 1990（同2）年3月／第2回原爆ドーム保存工事を完了。
- 1996（同6）年12月／原爆ドーム、厳島神社、世界文化遺産リスト登録

# 広島・北京ユネスコ協会 姉妹交流八年間の成果

## 交流と理解

## 教育熱

日本ユネスコ協会連盟と中国  
教育国際交流協会との間で結ば  
れた交流計画に基づいて、一九  
八八年、広島ユ協は、北京市ユ  
ネスコ協会と姉妹協会関係を結  
び、八年間、五次にわたって訪  
中団を派遣し、同様に中国から  
の訪日団を迎えて交流事業を推  
進してきました。

そして、昨年、協定期間の満  
了を迎えましたので、この区切  
りを機会に、日中交流の意義と  
成果をお復習する場を一月開

催の国際交流サロンにあてが  
い、歴代訪中団団長（加藤明一、  
深崎敏之、伊東亮三、北川建次、  
大和喜久男各氏）訪中順）によ  
る座談会を開きました。なお、  
会には訪中団の通訳・案内を務  
められた司占樹氏（広島大学留  
学中）が参加され、同氏に託さ  
れた北京市ユ協・陶西平会長か  
らの新年の挨拶（別掲）が紹介  
されました。

座談会発言要旨は次のとお  
り。

広島ユネスコ協会  
会長 伊東亮三 先生

北京市ユネスコ協会主席 陶 西平

謹啓 明けましてお目出とうございます。  
貴協会との交流以来、私たち両協会は、ユネスコ交流計画  
に基づいて素晴らしい成果を挙げたものと思います。ここに、  
心から感謝の意を表わさせていただきます。

今後とも、わが協会は貴協会と不断的に両地でユネスコ活  
動を展開するなかで取得した経験と成果を交流したいと考えて  
います。そのことにより両協会を発展させて、私たちの同  
じ目標を実現したいと思ひます。

この新しい一年、私たちの同じ目標のために一緒に頑張り  
ましょう。

最後に、貴台のご健康とご活躍を心からお祈りいたします。  
敬具

北京市ユネスコ協会  
主席 陶 西平 先生

広島ユネスコ協会会長 伊東 亮三

拝復 中国と日本の友好・親善関係の発展のためのご尽力  
に心から敬意を表します。

さて、1988年、貴ユネスコ協会と広島ユネスコ協会との間  
で「友好姉妹協会協定」が結ばれて以来、8年間にわたって  
相互に代表団を派遣し、迎えて、学び合い、深い絆を結んで  
参りました。この間、日本の訪中団に寄せられました熱烈で  
深慮に満ちたご歓迎に、改めてお礼を申し上げます。

この度、本交流事業が多くの成果を挙げて姉妹協会の関係  
を終了することになりました。今後は交流を通じて学んだ教  
訓をさらに発展させて中国・日本のユネスコ交流、友好促進  
のために努力を重ねていきたいと存じます。

北京市ユネスコ協会の発展と関係者の皆様のご健康とご活  
躍をお祈りいたします。  
敬具

・訪問した各地で大きな関心を  
持たれ、友好の精神で中国特有  
の熱烈歓迎を受け、最高のもて  
なしの心で接していただいたこ  
とに対する感激と感謝は忘れる  
ことが出来ない。  
・この交流を通して人と人との  
交流が国際理解に一番役に立つ  
し、大切であることを感じた。  
・日本文化の源が中国にあるこ  
とや過去の歴史のことを考える  
と、交流は大変大切なことだと  
痛感した。

・中国各地を訪問して感じたこ  
とは、中央の指導が各教育委員  
会に徹底しているということ。  
・遼寧省で教育の説明を受けた  
時、職業教育、わけても農村開  
発の農業教育に力を注いでいる  
ことを教わった。  
・ユネスコ活動は、日本では社  
会教育の一環であるが、中国で  
は国の学校教育に練り込まれて  
いるようである。民間活動とし  
ての実態はないようである。  
・上海では学校教育の理想とし  
て「忍耐強さ」「美」「勇気」を  
挙げ、そのことを表す動植物の  
絵が掲げられ、また、内モンゴ  
ルの識字教育が行われている教  
室には理想的な人間像としての  
肖像画が掲げられていた。  
・文字の読めない人をなくする  
ために漢字の簡略化が進められ  
ており、歴史や文化を伝承して  
いくのに支障はないだろうか。  
・ひとりっ子政策の一端を知る  
ことができたが、将来どういう  
ことになるのか考えさせられ  
た。

## 日中ユネスコ友好 姉妹協会締結書

中国の地域ユネスコ組織  
と日本の地域ユネスコ協会  
の交流を促進することをめ  
ざし、ここに締結する。

(1) 中国北京ユネスコ協会  
と日本の広島ユネスコ協会  
は友好関係を樹立する。両  
者は随時にユネスコ活動資  
料、図書を交換する。

(2) 〈要旨〉初年度は中国  
側が、第二年度は日本側が、  
第三年度は中国側が：派遣  
する。

(3) 〈要旨〉双方は、派遣  
団の渡航費は自己負担し、  
代表団受入れ側の国内諸経  
費は受入れ側負担とする。

(4) 代表団の訪問日数は十  
日間とする。

て、このまま交流の場を失うこ  
とは残念だが、国際交流をさら  
に積極的に進めようという気持  
ちをみんなが出せば、方法は見  
出せるのではないか。

・これまでの積み重ねと培った  
人間関係もあることだし、研究  
していこう。  
〈文責・山本〉

## 課題・今後

・得難い勉強と交流を重ねてき

# 第5次訪中団報告

## 96年10月20日～30日

### 再認識・民間活動

大和 喜久男  
(常任理事)

日中ユネスコ交流計画最終年の中国訪問団に加わり、はじめ中国の地を踏んだ。中国におけるユネスコ運動がどのように行われているかを学ぶために、教育委員会、学校等を訪問した。

中国では十四都市にユ協があり、ユネスコ運動の啓発、世界各国青年との交流、環境保護活動、国際キャンプの実施、識字運動など実施しているとのことであったが、中国では国の施策として日本という学校教育と社会教育がドッキングして行われている感じがした。驚いたことは軍人のプロサッカーチームのあること、修学旅行のバスが渋滞で動けなくなったとき、パトカーが先導してくれることがあるなど、また日本では高齢化社会に伴う少子化傾向が社会問題となっているが、中国における一人っ子政策は徹底しているように日本とはまた異なった人口問題となるのではないかなどである。わずか十日間の滞在で中

というより、全国の学校教育そのものを国際交流のもとにレベルアップする手段としているように感じました。

国の片鱗にふれたに過ぎないが国際的活動を行う民間人、団体が一つの社会的な力や世論となり、政府を動かしつつ良好な国際関係を維持する民間ユネスコ運動は、今後ますます重要性を増すのではないかと思われる。

### ユネスコと学校教育

松尾 昭彦  
(理事)

中国のユネスコクラブの歴史は一五年程度と浅いが、燃えるような勢いで各省に広がっている現状と聞きました。活動の主体を青少年に置くと言うので、注視したところ、クラブの活動



〈北京・汜文中学校見学〉

学校教育は、「祖国に役立つ人間に」を目標として、知・徳・体の充実を図っていました。英語教育とコンピュータ教育には特に力を入れ、小学校低学年から導入していました。

各地域各校種に重点学校を配置して優秀さを競っているように「北京大学、清華大学に何人合格した」という自慢話を何度も聞きました。

卓越した模範を作り、見習っていくことが国力の充実につながるということでした。

一方では、助けが必要な僻地の小学校があり、これの克服に内外のユネスコ運動と援助に期待しているということでした。

### 知・徳・体

末重 文男  
(理事)

西安の戴居仁ユネスコ主席や西北工大附中校長の話によりまず西安の教育事情は、A・義務教育九年が陝西省百七県のうち四十県のみ完成。経済が遅れていて貧困地が多く、経費は国・省・県の予算と民間の寄付にたよって

# 訪中日程

る。教員給与は十五職種中九位くらいで教師の数や質に困っている。生徒一人に先生一人が三十校ある。少子政策の弊害が出ている。教育目標は進学で進学率は5%程度。  
B. 全国で百校の重点大学中六校が陝西省。学費は不要。大卒でも給料は同じ。教育は「知・徳・体」の中「知」を重視。  
C. ユネスコ活動は教師や留学生などの人的交流や識字運動など。クラブ数は少ない。女性五百傑の一人校長の実績にも驚きましたが、日本とはけたはずれの広大な土地や歴史の古さ、史跡の偉大さには驚嘆するばかりでした。ただ、子供はどこも同じだなと感じました。

### 広島・北京姉妹協定「文物」交流

88年／広島市立中央図書館刊「松斎梅譜復刻版」。※中国・元代画家、呉大素著。1351年刊行。原本が無く、写本四点が日本に現存し、その一点を中央図書館が所蔵。書物の内容は、梅の図鑑、梅画法を通して展開される哲学的色彩の書。  
90年／スライド構成「広島

- 20日 広島出発
- 21日 北京へ(成田発)
- 22日 表敬訪問/中国ユネスコ全国委員会、中国教育国際交流協会、聯合國ユネスコ北京事務所、北京ユネスコ協会
- 23日 学校視察/汜文中学、史家胡同小学。歓迎会。
- 24日 表敬訪問/西安ユネスコ協会。歓迎会。
- 25日 学校視察/西北工大附中、西安高新第一中学、西安小学。碑林・大雁塔見学。
- 26日 秦始皇陵等見学。
- 27日 歴史博物館見学。
- 28日 万里の長城見学。
- 29日 故宮見学。歓送会。
- 30日 帰広(福岡経由)
- 県帝釈小学校/遼寧省磐錦小学校/野鳥観察交流記録。
- 92年/「77歳の證」書道家・竹沢丹一著(書全集)。/ビデオ映画「ヒロシマ国際アマチュア映画祭入賞作品集」
- 〈教科書交換・ほか〉広島市教育センターと北京市教育局の間で小・中学校、高校の歴史教科書交換。中国訪日団、来日時毎回、広島大学付属中・高校へ中国教科書を寄贈。広島市発行パンフレット等を寄贈。

# 70回を迎えた

## 国際交流サロン

一九八八(昭和63)年一月(ゲスト 備前作家・藤原雄氏)に始まった国際交流サロンはこの一月のサロンで70回を迎えました。

そこで広島ユネスコ協会発足当時から会員の新川貞之、元事務局長・古田碩永、現事務局長・信井正行各氏に国際交流サロン70回をふり返って、これからの在りかたなどを伺いました(いずれも談話)。

※70回のサロン内容は8ページに掲載。

### 新川 貞之 (文化担当常任理事)

国際理解ということを中心に、教育・文化・音楽・美術と幅広い分野から講師を招いてサロンが開かれるので毎回来しみに出席しています。会場のアンデルセンの雰囲気、コーヒーを飲みながら会員同士のつながりも深まり、とても良い会だと思えます。ムシカという音楽喫茶で定例の会合が持たれて生演奏を聴いたり、国際大会もやりましたし、ヴァイオリニストの諏訪根自さんを迎えてユネスコ主催のコン

サートを開いたこともあり、広島島の音楽、文化創りに貢献したことは歴史に残ります。

昭和60年ごろ当時の加藤明一副会長と毎月一回国際交流協会に集まりましようとお出かけていましたが、それがサロンの前身です。外部から迎える講師の方々から知識が得られるということが大きな魅力です。

今後の課題は若年層へユネスコにいかに向を向けさせるにはどうしたらいいかということですね。

### 古田 碩永 (前事務局長)

昭和59年広島で世界大会を開催した後、少し停滞しました。その時当時の河村盛明会長が発案されて、月一回勉強会を、ということからサロンが始まったわけです。交流サロン以前に内海会長がチャレンジ・ユネスコということを言っておられます

が、現会長の伊東先生も外に向けての活動ということで、中だけでまとまらないで楽しい会に

しよう、ということをおっしゃっています。定期的にサロンを開くことによりユネスコ協会が外に向かつて、会員に対してはユネスコの存在を意識してもらおう、そんな役割がサロンにはあると思います。

70回のうち会員が11回講師をつとめています。会員の発表の場でもあるわけで意義があります。国際交流サロンは毎回ヴァリエーションに富んでいますし、会員以外の人の参加によって会員が増えるという利点があります。魅力あるサロンにして毎回40名から50名くらいの会にして幅広く会員になっていたとしてもっともっと対外的に拡がればいいですね。

### 信井 正行 (現事務局長)

国際交流サロンというのはユネスコ活動の原点のようなものです。ただ話を聞くというよりも自分の持っているものを提案していく、自分の意見を発表する機会にするということ、サロンの方針、運営の重点とするというように今後考えていけばいいのではないかと思います。

常にゲストは有名人ということではなく、むしろ会員と同等

の人々、そんな方々の話を聞いてサロンを展開、運営できればと思います。(文責 由田)

## サロン はがきアンケート

### 永井滋郎さん

諸種の都合により、毎回出席することは出来ませんでした。が、参加した数回は、いずれも有意義で興味深いものでした。事務局のご苦勞を感謝いたします。若い世代の発言の機会がもっとあれば、と思っています。

### 奥中正之さん

広島県立美術館見学会が良かった。専門員の解説が役に立った。その他異文化との交流体験をテーマとするサロンは印象に残っている。今後共異文化との共生のありかたについて考えるヒント提供の交流サロンを希望します。

### 沼田鈴子さん

毎回のご案内を嬉しく拝見し、メモ帳の頁をひもとくと、ああ残念のひとつと。ときたまの

### 本家正文さん

継続は力なりと言いますが、ユネスコ協会の国際交流サロンは、それぞれの貴重な体験をいきいきと伝えていただき感謝しております。いずれも、兄たりがたく、弟たりがたして、物事を見つめる視点を学ばせていただいています。今後とも、型にはまらず、それぞれの角度からで教示願います。

### 北沢松子さん

国際交流サロンでいろいろな国の方のお話を伺うのを楽しみにしております。中国とはいささか想い出があり一度は行って見たい国です。戦時中、五年間天津におり、次男二歳の時亡くし、中国の方にもお世話になり、遺骨を教会に預けて一時帰国で帰りを忘れたことはありません。ユネスコのご発展をお祈りいたしております。

### 国際交流・私の場合

松岡 盛人  
(常任理事)

近所に住む米国のバードン夫妻とお付き合いが始まったのは今から二年前。私と家内が英会話に通い、奥さんのノーマさんが家内に生け花を習うようになったのが、きっかけでした。ノーマさんが日本の焼きものに興味があるとのことでご夫妻を救にお連れしたり、私の郷里の長門などにも案内したりしました。

昨年六月、ご夫妻が帰国されることになり、離広前夜、我が家にバードン夫妻と英会話の仲間を招いて家内の手作り料理でお別れパーティーを催しました。

その夏には、ご夫妻のお誘いで、家内と高二の二男が一か月間、シアトル郊外の自然に囲ま

れたご夫妻宅にホームステイする機会に恵まれました。一か月間もバードンファミリーにお世話になったにもかかわらず、「今度来るときにはもつと長く滞在してね」とのご夫妻の寛大で温かい言葉に家内は大変感激していました。

バードン夫妻にはほとんど日本語が通じず、家内も二男もあまり英語が話せませんが、気持ちの通じ合いは国境を越え、コトバのハンデいを克服できること、そして個人レベルの人間関係が国際交流の原点であることを今改めて実感しています。

### 寺小屋募金四万円余

高校生の募金 つどい

昨年十一月四日、広島大学附属高等学校を会場として「第九回広島ユネスコ高校生のつどい」が開催されました。

この「つどい」は、高校生に国際理解の精神を育成するために、毎年行われているもので、今年も十七名の高校生が参加しました。今年のテーマは、「ともに生きるためにーバンダラディシユに学ぶ」で、バンダラディシユの歴史や文化についての報告や、民族衣装の着付けなどが行われました。



〈中央は太鼓常任理事〉

「つどい」に引き続き、「ユネスコ・コアアクション街頭募金」をそごうデパート前で行いましたが、若い高校生の活動に共鳴して多くの方が募金に応じてください、四万四、一四一円を日本ユネスコ協会連盟に送りました。

〈藤原隆範理事〉

### 難民救済募金に協力

現地ザイルでは民族紛争により多くの国民が難民となりました。その三分の二が子供であり、特に二歳くらいまでの乳幼児が栄養失調で生命の危機に瀕しています。

広島では一昨年の「ピースワールド・イン・ヒロシマ」にザイル国立芸術院合唱団の子供たち三十名が参加して世界の子供たちとともに平和の素晴ら

しさを歌い上げました。この度、広島市からの呼びかけに応じて当協会からも三万円の募金をいたしました。

### 【中国ブロック研究会開く】

中国ブロック・ユネスコ活動研究会が、昨年十二月七・八日岡山国際交流センターで、関係者百名が、広島は上橋穂留常任理事が参加して開かれました。

一日目は、AMD A代表菅波

茂氏の講演と各県からの事例発表が行われ、二日目は「日蒙ユネスコNGO」視察団に続いて懸案の会則を採択、会長に萩

### 使用済カード・切手が国際協力に役立ちます

使い切ったテレホンカード、J Rオレンジカードなどのプリペイドカードは、内外の収集家に購入され、その資金が開発途上国の生活改善に、また、切手は国内の収集家に販売され、その収入で医師、看護婦のアジア開発途上国への派遣とアジアの医学生奨学金に役立てられます。

収集にご協力ください。

### 日誌

協村田昌志氏を選出しました。今年の中国ブロック活動研究会は山口県開催と決まりました。

▲十月▼

六日 第十三回べあせろべ／広島市中央公園。

▲十一月▼

四日 第十九回広島ユネスコ高校生をつどい・コアアクション街頭募金

▲十二月▼

六日 原爆ドーム、厳島・世界文化遺産登録決定。

七日 中国ブロック・ユネスコ活動研究会／岡山。

十日 原爆ドーム世界文化遺産登録記念広島県民の集い／ワークピア広島。

### 会員消息

◆木村進匡さん／昨年十月精神保健福祉事業貢献に対して厚生大臣表彰。

◆奥中正之さん／昨年十一月、ひろしま国際センター主催「国際理解訪問団」に参加して台湾、香港訪問。現地大学生と交流

◆松原博臣さん／昨年十一月地域文化功労者として文部大臣表彰。

表彰。

〈秋・指月公園内の茶室で〉

# 国際交流サロン 70回の歩み

▼88年1月「逆手」備前焼陶芸作家／藤原雄。2月「尺八で国際交流」琴古流尺八宗家／川瀬順輔。4月「アジアの眼・世界の眼」明治大教授／越智道雄。6月「植物と国際交流」広島市郷土資料館主任／榎本克彦。7月「中国・出会い、発見」広島大附属高教諭／永田龍男。8月「ボルゴラード再訪」広島市国際交流協会常任理事／深崎敏之。9月「日本とインド」過去、現在、未来」前駐日インド大使／エリック・ゴンザレス。10月「インターナショナル・スクールの役割」広島スクール校長（米国）テリー・ドナルドソン。11月「日本と世界、これからどうなる」東京大教授／榎添要一。

▼89年1月「日欧経済関係1992年のEC域内統合と日本への影響」西独コンスタンツ大教授／フランツ・エクステ。2月「交流あれこれ」広島県立女子大学長／河上道生。4月「アルゼンチン音楽事情」(アルゼンチン)作曲家／B・V・シエルフィン。5月「古代シルクロードと日本」山陽女子高校長／石

田光孝。7月「アジアのイスラム」広島大教授／今永清二。8月「最新国際情勢」外務省条約局審議官／丹波実。9月「国際交流」エリザベト音大学長／J・M・ベニテズ。12月「最新オーストラリア事情」キリンビール広島工場長／盛岡良之。

▼90年1月「国連から見た広島」国連ニューヨーク本部行政官／黒部紳一郎。5月「アジアの工業化」富士ゼロックス事業部長／岩部潤三。6月「広島・カナダ・モントリオール」広島ホームテレビ開発部長／田中勝邦。7月「転換点のタイの政治経済」広島大講師／山尾政博。10月「IPPNW(核戦争防止医師の会)と新しい国際情勢」同日本支部理事／木村進匡。12月「中国人留学生の広島観」広島大留学生／方青、苑復杰。

▼91年1月「湾岸情勢」広島大教授／吉村慎太郎。2月「最近のインドネシア」広島経済大客員教授／ユリアン・ルタン。5月「インド最新事情」農村開発調査から」広島大教授／藤原健蔵。6月「ヨーロッパ菓子の歴史」モーツアルト技術顧問／熊崎賢三。7月「チェコと私」バ

イオリニスト／中畝みのり。8月「私を見た日本・日本人」ニューヨーク市立大広島校校長／

G・キャメロン・ハースト。9月「ヒロシマ国際アマチュア映画祭・内外作家の視点」映画祭実行委員／川本昭人。10月「中国近代絵画の源流」北京中央美術学院教授／李行簡。12月「パールハーバーからヒロシマまで」

▼92年1月「国際情勢とわが国の対応」外務省条約局審議官／野村一成。5月「国際平和文化都市広島市長就任一年を振り返り」広島市長／平岡敬。6月「日系アメリカ人の生活と米国教育実態」広島市招聘英語講師／ジーン・関舎。8月「映画『原爆の子』と私」映画鑑賞者女

爆の子」と私」映画鑑賞者女優／乙羽信子。9月「クルド族の難民救援活動に参加して」広島赤十字看護専門学校教師／坂本成美。10月「ありがとうで国際交流」ヒューマンウェア研修所代表取締役／清水英雄。

▼93年1月「広島・北京友好訪中団報告」広島大教授／伊東亮三ら。2月「国際化社会で何が平和をもたらすか」岩国ユ協／三原善伸。5月「韓国人の心よりどころ」日本学術振興会外国人特別研究員／崔烈坤。6月「留学生生活アラカルト」オルガン奏者／和田之織。7月「日本人・中国人の考え方」広島大外

国人数員 杏国棟。9月「ルーマニアとブカレスト管弦楽団」エリザベト音楽大助教授／光井安子。11月「日・タイ・カルチャー・ショック」日タイ友好協会常任理事／多田チャニント

▼94年1月「インドネシアの教育と文化」広島大助教授／小池誠。2月「アジアの素顔がやさしい」中国放送アジア・ピースロード・プロデューサー／渡辺茂美。5月「アジア競技大会にまつわるコミュニケーション」ア大会組織委渉外部長／藤井正一。6月「異文化理解」広島大助教授／倉地眺美。7月「映画の中のアジア」サロンシネマ支配人／蔵本順子。9月「日本文明批判」広島大大学院中国人留学生／王冰。10月「台湾の中の日本」広島大大学院台湾留学生／鄭智恵。11月「アジア競技大会の遺したものの」ア大会組織委

▼95年1月「広島・北京友好訪中団報告」広島大教授／北川建次ら。2月「私のアイデンティティ」日系ブラジル人の視点から」広島大ブラジル人留学生／市田イリリア・えりか。5月「戦後50年の意義と将来の課題」広島修道大教授／吉川元。6月「外国人に対する日本語教育」広島

大教授 奥田邦男。7月「日中文化似たる・非なるところ」中国駐大阪総領事館領事 李春生。9月「日暮れて道遠し大英帝国」奈良教育大教授 田淵五十生。10月「フルート独奏とトーク」広島交響楽団客員奏者(チエコ)／パベル・フォルティン&中畝みのり。

▼96年1月「新時代の人づくり」広島県教育長／寺脇研。3月「タングの古里ブエノスアイレス」広島市国際交流協会事務局長／山崎克洋。5月「ことばと文化」広島市立大講師(中国)／欒竹民。6月「ニューヨーク個展」陶芸家／木村芳郎。7月「IPPNWの目指すもの」日本支部理事／木村進匡。9月「地球市民」演奏と話」ピオラ奏者／沖田孝司。11月「美術への招待」広島県立美術館収蔵品 同館学芸員／角田新。12月「原爆ドーム・ユネスコ世界遺産登録の意義」世界遺産化をすすめる会初

代代表／古田隆規。

▼97年1月「広島・北京ユネスコ交流の歩み」広島ユ協歴代訪中団団長、北京市教育委員会(広島大留学生)／司占樹。2月「移民と国際交流」広島市公文書館 主監／松林俊一。

(敬称略)